



Emergency Watch

発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 小児急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター



2011年12月受診者数：3169人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 1808人 (1466人)
2. 咳 : 1265人 (270人)
3. 鼻汁 : 957人 (27人)
4. 嘔吐 : 889人 (534人)
5. 発疹 : 422人 (87人)

疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 988人
2. 感染性胃腸炎 : 800人
3. インフルエンザ : 292人
4. 気管支炎・肺炎 : 245人
5. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 189人



今月のワンポイント！

神戸こども初期急病センターは、23年12月より開設2年目に入りました。22年12月から23年11月までの1年間で、30518人の受診があり、地域のこども達の病気の初期診療施設としての役割を果たしてきています。

12月に入り、寒い日が増えてきたことや、年末年始で病院が休みの日が多かったことがあり、12月は3169人の受診がありました。特に年末は患者さんが多く、12月31日は今までで最も多い374人の患者さんの受診がありました。

受診患者さんの疾患で多いものは、感染性胃腸炎です。兵庫県感染症情報センターの報告でも、平成23年11月頃より感染性胃腸炎の患者数が増えており、年が明けてもその傾向が続くと考えられます。この時期の感染性胃腸炎の原因として、ノロウイルスによるものが言われています。吐物などの後始末の時はもとより、普段から手洗いを励行し、感染が拡がらないように注意して下さい。

インフルエンザの患者数が12月後半から少しずつ増えてきています。インフルエンザと診断された患者さんは292人で、昨年の12月より多く、今年は流行時期が少し早いのもかもしれません。迅速検査では、ほとんどがA型でした。感染症情報センターによりますと、今はA香港型が流行しているようです。インフルエンザに罹らないように予防することとともに、もし罹った場合には、それを拡げないようにすることも大切です。手洗い、うがい、マスクの着用、咳エチケットなどをきっちりしましょう。そして、高熱など、インフルエンザが疑われる場合は早めに医療機関を受診しましょう。